

年少者のための継承日本語教育におけるプロジェクトアプローチ を使った合同授業のデザイン

ダグラス昌子

カリフォルニア州立大学ロングビーチ校

mdouglas@csulb.edu

Application of Project Approach to teach combined classes of
young learners of Japanese as a heritage language: Design and
procedures

Masako O. Douglas

California State University, Long Beach

Abstract

This paper presents a process of designing curriculum for young learners of Japanese as a heritage language, utilizing Project Approach (Chard 1998; Katz & Chard 1997). The paper describes a rationale to employ the approach in terms of a developmentally appropriate practice in cognitive, linguistic, affective and social domains. The principles to establish learning goals and to design learning activities are: Standards-based, learner-centered, and integrate curriculum. The paper presents learning activities based on the principles and discusses assessment.

要旨

本稿は、年少継承日本語学習者の言語面、認知面、感情面、社会性の発達からのニーズを満たす学習活動として、プロジェクトアプローチのデザインの方法と具体的な教材例、及び評価方法を紹介する。デザインは、次の原則に基づいている：マルチレベルの学習活動、プログラム全体の学習目標の一貫性と継続性を維持するためにスタンダードに準拠、学習者主体の学習活動、複数の教科をテーマに応じて関連付けて教える統合型学習。

投稿のカテゴリー：実践レポート

本稿は年少者(K-6)のための継承日本語教育のアプローチの一つの可能性としてプロジェクトアプローチを使った授業の実践報告である。本稿の焦点は具体的な学習活動のデザインのプロセスを紹介することにあるが、まず言語力からみた継承語の特性、現在の年少者継承日本語教育の状況と問題点、そして言語教育の原則を手短にまとめ、これをプロジェクトアプローチ使用の理論的根拠とする。次にプロジェクトアプローチの説明を行い、本題のデザインに移る。

言語力からみた継承語の特性

日本語に限らず、親の言語として家庭で身につける継承語とは、インプット量及び質からみて母語とも異なり、またその習得過程は外国語とも異なることは既存の文献で指摘されてきた (Campbell & Rosenthal 2000; Nakajima 1988, 1998; Polinsky 2000; Valdés 1995)。母語は誕生からさまざまな場面での使用、及び社会的関係の異なる周囲の人との接触経験を通して、継続的に習得される。しかし継承語の場合は、家庭が主な習得の場であり、限られた接触場面での習得であるため、例えば敬語意識が育たない、助詞が落ちる、段落構成の欠如などの問題が起きたり (中島 1998, p.161)、日常会話はできても学習言語は未発達など「言語力の領域ごとの不均衡」 (Valdés 1995) が見られたりする。従って、このような特性をもつ継承語教育では、未発達の領域を逐次補強していくというアプローチが必要となる。これは、単語から単文、複文、談話と、小さい単位から大きい単位へと積み上げていく外国語教育の

アプローチとは異なる。従って継承語話者の発話では、ある領域またはトピックに関する発話で未習得の語彙があるからといって、単文、複文、談話というより大きい単位の発話が未習得である、あるいは言語力が単語レベルの低いものであるとは判断できない。

年少者のための継承日本語教育の状況と問題点

「継承語教育」という表現は、英語以外の言語の学習と維持、及び消滅しつつある言語の再生をも含む広義の定義がなされてきた (Valdés 2001)。本稿では、継承語話者を Valdés (2001) に従い「英語以外の言語が話される家庭で育ち、その言語を話すことができるか、あるいは少なくとも聞いて理解でき、英語とその言語においてある程度バイリンガルである者」(p. 38) と定義する。

現在日本語を継承語とする年少者は戦前に創設された日本語学校か、日本への帰国予定の児童・生徒の教育を目的として創設された補習校で日本語を学習している (ダグラス、片岡、& 岸本 2003)。しかし、日本語学校では学習者が3世、4世、5世と世代が進み、日本語がすでに家庭言語、つまり親から継承した言語ではなくなり、また日本語・日本文化とは全く関係のない外国語としての日本語を学びたい学習者も増加しつつある。そのため、カリキュラムも外国語としての日本語が教育目標となっている。一方、補習校では日本帰国後の教育にあわせ日本国内と同一のカリキュラムを使っている。従って、両者とも、アメリカに永住し、日本語を学ぶ児童・生徒のための継

承日本語教育のカリキュラムとは目標、内容ともに異なるものであり、必ずしも継承日本語話者のニーズに合ったものとは言えない。

しかしながら、年少者の継承日本語教育は、アメリカでは学校教育の枠外で行われてきたが故に、継承日本語話者のニーズに合ったカリキュラム及び教材の開発、教師トレーニング、教授法の研究など、どの分野をとっても十分ではないことはすでに指摘されている（片岡他 2001; Sasaki 2001）。また、年少者の学習動機も低く（Brook 1988、中島 1998）、これは学校教育外であるため学習者にとって日本語学習は親から押し付けられる余分なものという意識と、学習者のニーズに合わない教材、教授法が一因となっていることが考えられる。

継承日本語を学ぶ年少者のニーズは、日本語力の維持発達だけではなく、各教科の内容についての知識を獲得すること、そして年少者一般にあてはまるように、「考える力（問題解決力、創造性、自己評価力）、社会性（協調性、他の人の言うことに注意を向ける、責任をとる）、情緒（学習動機、興味をもって何かをする）」（Katz 1994）など、五つの主要分野にまたがるものである。従来の継承語教育は、言語教育だけが教育目標となっており、上記の5領域を視野に入れて教育目標を設定するというアプローチではない。では、この5つの領域でのニーズをみだす言語教育のアプローチとは何かを次の項で述べる。

言語教育の原則

第一言語、第二言語、外国語を問わず、また学習者の年齢に拘らず、言語教育の方法において言語とコンテンツ（ここでは学習のテーマや教科をさす）を同時に教えるコンテンツベース・アプローチ(content-based approach)が定着してきている（年少者の言語教育については Spanos, 1989; 大人の言語教育については Brinton, Snow, & Wesche, 1989; Stryker & Leaver, 1997 を参照されたい）。その理由は、コンテンツベース・アプローチの一種であるイメージョン方式における研究から、第二言語教育では言語だけを切り離して教えるよりも、言語とコンテンツを統合して同時に教えたほうが成果があるという結果が出たことによるものである。

ERIC L & L Digest (1995)は、年少者のための第二言語教授法がイメージョン方式から学ぶこととして次の4項目をあげている：（1）言語は本来の目的と意味のある場面でのコミュニケーションの中で習得されるのが最も効果的であること、（2）学習者にとって意味、興味、学習価値のあるコンテンツが、そのコンテンツに付随する言語形式やパターンを理解・習得する基盤をなすこと、（3）言語の発達は、年少の学習者の成長過程において、認知力や社会性の発達とともに必要であり、この3領域をともに発達させることを言語教育の目標にしなければならないこと、（4）言語習得が言語使用場面による制限があるため、できるだけ異なる場面（あるいは異なる教科）での多彩な言語使用を経験することで、バランスよく言語力を発達させていかなければならないこと。

以上のようにコンテンツベース・アプローチは、言語力をつけてからコンテンツ（例えば教科学習）に進むのではなく、コンテンツを習得しながら言語力も発達させていくものであるが、コンテンツと言語の同時習得を可能にする学習活動の具体的なデザインが最も工夫のいるところである（Brinton & Holten 1997）。コンテンツの中でも教科の内容習得を目標とする場合、各教科の教科書に書かれていることを読んで知識を得るという学習活動は、文字情報だけに頼り、文字以外の情報（例 実物、写真、絵など具体的なもの）からの助けが少なく、認知力に最も負荷がかかる（Cummins 1992）。Cummins (1992)は、同じ教科内容でも、第二言語での最初のインプットを文字以外の情報からの助けのあるものにするすることで、その学習内容がより理解可能になり、結果として文字だけに頼る状況での第二言語の発達が促進されるとしている。

本稿のプロジェクトアプローチでは、お菓子の販売という活動での仕入れ値、売り値、利益という経済の概念や、売り上げの計算という算数の概念を、学習者が本を読んで得た言語情報だけに頼って学ぶのではなく、ハンズオンで体験することで場面からの助けを借りて学ぶ。同時にプロジェクトのための話し合い、及びポスターとお礼を書くという言語活動による言語習得をもめざす。

プロジェクトアプローチとは

プロジェクトとは、簡潔に言うと、学習者または教師が選んだ、学習する価値のあるトピックについて学習者がグループまたは個々に深く調べる学習

活動である (Katz 1994)。この学習活動は初等教育においては新しいものではないが、1990年代の研究によって効果的な学習活動であることが実証されて以来、再び活用されるようになった (Kandel & Hawkins 1992)。また、外国語教育においてもプロジェクトワークが取り入れられているが、それは教科書の学習項目を消化したあとの応用として、教室外でグループワークをするという活用方法が多いのではないだろうか¹。初等教育におけるプロジェクトアプローチは、プロジェクト自体が学習活動の核となり、その中で必要な知識やスキルを導入、練習、習得していくというところで外国語教育におけるプロジェクトワークとは質を異にするとと言える。プロジェクトアプローチを従来の教科学習の学習活動と比べると図1(巻末)のような違いがある (Katz & Chard 1997)。

年少学習者は先に述べた言語発達の程度に著しい違いがあるだけでなく、考える力、社会性、情緒などあらゆる領域において発達の度合いが異なっている (Hart, Burts & Charlesworth 1997; Katz & Chard 1997)。プロジェクトアプローチは学習者がすでに習得している知識やさまざまなスキル (例えば、言語力、計算力、読書力など) を出発点にして、図1にあるように、学習者が既に持っているものをさらに発達させるという意味で学習者主体の学習活動である²。

また、従来の教師主体のカリキュラムには、学習活動の中に学習者自身の興味や、すでに獲得した知識との関連が常時盛り込まれているわけではなく、

学習者が学習の意義を見出すことが困難である。これが学習動機の低さの要因の一部となっている(Katz and Chard 1997)。学校教育の枠外での教育という継承語の学習環境は変えることができないとしても、学習の意義を学習者自身が感じることで動機を高めることは可能である。

プロジェクトアプローチの原則は、以下のようにまとめられる。

- 子供の発達のレベルから学習が始まる
- 学習内容は各教科を個別に学ぶのではなく、いろいろな教科がトピックの必要に応じて統合的に導入される
- 先の言語教育の原則で述べたように言語を学ぶことだけが最終目標ではなく、言語と教科内容を同時に学ぶ
- 常にハンズオンでの体験を通して、場面からの助けを借りて理解を助長する

また、本稿の合同プロジェクトデザインには、以下の原則も追加される。

- 年齢の異なる学習者が協同で学ぶことで、年齢の上の学習者または課題をこなせる力がある学習者からの支援により、一人ではできない課題がこなせるようになり、やがては一人でも課題がこなせるようになる。(Vygotsky の ZOPED <Zone of Proximal Development³>(Cole et al. 1978))

- スタンダード準拠により学習内容を現地校のカリキュラムと関連付け、学習者は既習もしくは習得途上の知識を活用することができ、また低学年から高学年までの学習につながりと一貫性が生まれる

プロジェクトアプローチを使った学習活動のデザイン

この章では、「ハローウィンお菓子屋敷」という資金集めの学習活動を用いて、プロジェクトアプローチを使った学習活動のデザインの例を紹介する。学習活動のデザインのプロセスは以下の四つのステップからなっている。

(1)大きなトピックの設定、(2)学習目標の設定と選択、(3)具体的学習活動のデザイン、(4)評価。以下にこの4ステップを説明する。

(1) 大きなトピックの設定

トピックの選択は学習者が何を学びたいかを考えるブレインストーミングの段階であり、学習者に関連すること、学習者から出されたものを可能な限り書き出す作業から始まる。トピック設定では、アイデアを思いついたらその時点で書きとめ、追加して貯めていくと、アイデアが多ければ多いほどトピック間に関連が出て、内容につながりのある学習活動を展開することができる。「ハローウィンお菓子屋敷」は、土曜学校で飼っているうさぎの餌代にかなりのお金がかかるという問題が出発点で、その解決法を話しあっている時に資金集めのためにお菓子を売ろうという子供達からの提案から発展させた学習活動である。プロジェクト名も子供たちの発案したいくつかの中から投票によって選んだものである。この場合、大きいテーマはお菓子の販売

であり、このテーマのもとに低学年、中学年、高学年⁴の3つのレベルの学習目標が設定される。

(2) 学習目標の設定と選択

前段階・ブレインストーミング 学習目標の設定は、まずお菓子の販売という活動を達成するためにはどんな知識、スキルが必要かを考えることから始まるが、この段階は学習者がどのくらいの知識を持っているかをインフォーマルに評価するステップでもある。ブレインストーミング の一つの方法として、アイデアウェブ作りがある (Chard 1998; Curtain & Dahlberg 2004)。クラスで「ハローウィンお菓子屋敷」と黒板の真ん中に書き、お菓子を売るためには何が、どういう作業が必要かを尋ね、学習者から出てきたアイデアのキーワードをすべて板書していく。図2(巻末) にその例を示す。

図2のアイデアは低学年のものであるが、これだけで終わるのではなく、話し合いの中で学習者の理解範囲を広げるために、「お金でどうしますか。もう少し話をしてください」「お菓子をどうしますか」(学習者からはいろいろな返答が出るが、お菓子販売が目的であるため、「売る」「買ってもらう」という返答に注目させる)「どんなお菓子を売りますか」「いくらで売りますか」「お客さんにたくさん来てもらうにはどうしたらいいですか」などつきあわせて考えさせる質問をすることで、その内容を掘り下げていくことができる。ここで注意しなければいけないことは、この種の質問は答えが一つ

だけというものではなく、また正しい答えや間違った答えというものもない。質問は学習者に考える機会を与えることが目的である。

学習者から引き出すアイデアは年齢によって異なるが、学年が上がるにつれて、宣伝、値段の設定、お金の計算、利益の概念なども取り扱うトピックとなる。

学習目標設定 ここでは、各レベルにあった学習活動を選ぶためにスタンダードが参照される。スタンダードは学科ごとに記述されていて各州の教育省が作ったスタンダードはほとんどがインターネットからダウンロード可能である。日本語学校と現地校のカリキュラムを関連させるために、日本語学校のある州のスタンダード、それがいない場合は **National Standards** を参照して学習目標を設定する。

「ハローウィンお菓子屋敷」のプロジェクトのアイデアウェブの中の「お金の計算」「利益」などのアイデアから学習目標をデザインするためには算数と経済学のスタンダード、ポスターやちらし作りでは言語のスタンダードをそれぞれ参照して学習目標を設定する。附録に各教科から選んだスタンダード及び継承語用のスタンダードをレベル別に挙げ、「ハローウィンお菓子屋敷」の中の該当する学習活動を示す。なお、各々のスタンダードの詳細は参考文献にあるスタンダードのインターネットアドレスよりダウンロードされたい。算数の学年別スタンダード(California Department of Education 1999)は本稿ではマルチレベルクラス用として、11、2年のものを低学年、

3、4年のものを中学年、5、6年のものを高学年に入れる。このように2学年分のスタンダードを一つにすることで、学習者のレベルに応じてどちらかのスタンダードを採るかが決められるため、学習目標の選択が幅のある柔軟なものとなる。継承語スタンダード(New York State Education Department Office of Bilingual Education 2004)は K-1, 2-4, 5-8 のマルチレベルで構成されている。

スタンダードは各教科および学年で扱う内容が広範囲にわたるため、すべてをこのプロジェクトの中に組み込むことは不可能であり、どれを扱うかは、学習者のニーズを基にした教師の判断に委ねられる。次のセクションでは具体的な学習活動のデザインを授業の流れに沿って提示する。

(3) 具体的学習活動のデザイン

具体的な学習活動のデザインに入る前にプロジェクトの時間構成、合同活動の組み入れ方について手短かに述べる。低、中、高学年の3つのレベルの合同プロジェクトは週1回3時間の授業の3回分をかけて行う。これに先立ってアイデアウェブを使って学習者の知識、言語力を把握したものとし、その後の学習活動をここに紹介する。合同プロジェクトは図3(巻末)が示すように、各学年レベルが個々に行う学習活動と、合同で行う学習活動からなる。個別か合同かは、活動内容の複雑さや使用言語のレベルによって決定されるが、先にのべた ZOPED の観点からみて、年齢の上の子供から学べることが多い活動は、できるだけ合同活動ができるデザインを試みている。

また活動は主に年齢で縦割りにした班単位で行われるが、各班の人数は常にペアでお互いが助け合えるよう、できる限り偶数にし、各レベルから2人ずつ計6人が1つの班を構成するのが運営上好ましい。その理由は各班で2人はレジ係、他の4人は2人ずつのペアで売る係りにすると、どの担当でも常にペアを組んで（ペアが無理な場合は3人で1チームを作り）助け合いながら活動ができるからである。また、レジ担当を決める時は計算の速さと正確さなどの算数のスキルを考慮する。以下に各レベルの学習活動を細かく検討する。学習のゴールと学習目標の違いは、ゴールとはこの場合プロジェクト全体が目指すもので、物を売り買いするというプロセスでは何が必要でどんなことをするのかという概念を学ぶものである。この概念の習得内容は年齢により異なる。学習目標とは学習の具体的な内容で、学習後にできるようになる、即ち学習到達度を記述するものである。

低学年学習のゴール お菓子の販売を通してマーケティングのプロセスを学ぶ

学習目標
効果的なポスターとはどういうものを学ぶ（普段ノートに書く字では遠くから見えないため大きく書く必要がある、楽しいイラストを入れることで人目をひくなどのポスターの基本の機能を学ぶ）
ちらしが作成できる（いつ、どこで、なにをやるという大切な情報が入っていないといけないことを学ぶ）
同じ値段のお菓子どうしを仕分けできる
助けを借りて、売り上げのコインを数えて、貨幣単位ごとに分け、コイン袋に詰めることができる（貨幣単位の認識）
お客さんが買ったお菓子の値段の合計の計算（1桁から3桁の足し算と引き算ができる）
仕入れ値、売値、利益の3つの概念を簡単に学ぶ（売り値から仕入れ値を引いたものが利益となるという概念）
売り、買いに使われる口頭表現を学ぶ
お菓子の名前をカタカナで書くことができる ⁵

お菓子を数える助数詞、販売に関する言葉を理解して覚える
プロジェクトがうまくいったかどうか内省ができる
年齢の異なる学習者がグループワークを通してお互いから学ぶ
協力し合うことを学ぶ

中学年学習のゴール
お菓子の販売を通してマーケティングのプロセスを学ぶ

学習目標
効果的な宣伝の方法、ポスターの書き方を学んで作成する（限られた紙面で何をどこにどの大きさで入れると効果があるか、ポスターの絵は何でもいいのではなく言語で説明する代わりに絵を用いる、つまり絵にメッセージがあることを学ぶ）
話し合ってお菓子の値段を決める（高すぎず、安すぎずという値段設定）
売り上げを伸ばすためには何が必要かを学ぶ
売り、買いに使われる表現（前年度参加者は復習として練習）
お菓子寄付のお願いの手紙、お礼の手紙を書く
単価、仕入れ値、売値、利益の概念を学ぶ（単価を出すために割り算を使う、単価の出し方のプロセスがわかる）
コインの枚数を数えて、コイン袋に詰め、詰めた袋の数と貨幣の単位から総合計を計算する（各班とプロジェクト全体の売り上げの両方の計算）
販売のときの反省ができる。
年齢の異なる学習者がグループワークを通してお互いから学ぶ
協力し合うことを学ぶ

高学年学習のゴール
お菓子の販売を通してマーケティングのプロセスを学ぶ

学習目標
効果的な宣伝の方法を学ぶ（お菓子がよく売れるために紙面の限られたポスターに効果的な宣伝文句を考え、適所に入れられる）
お菓子の値段の話し合いをリードする（話し合いの司会と板書）
基準と照らし合わせてポスターや手紙の評価ができる
売り上げを伸ばすためには何が必要かを学ぶ
利益の計算ができる（仕入れ値の～%を利益として売り値を計算する、仕入れ値・売り値・利益のどれかをxとした方程式をたて計算ができる）
売り、買いに使われる表現（前年度参加者は復習として練習）
コインの枚数を数え、コイン袋に詰める作業でグループを率先し、低・中学年各自の計算を検算して間違いをチェックする
単価、仕入れ値、売値、利益の概念を学ぶ（単価を低くすると同じ売り値でも利益があがるという概念）
リーダーシップを発揮して、低・中学年のグループメンバーの作業を助ける
年齢の異なる学習者がグループワークを通してお互いから学ぶ

<学習活動例: 1日目>

低学年

用意するもの

- お菓子（チョコレート、キャンディ、ガムなど色々な種類）
- ポスター作成のための大きいサイズの紙
- いいポスターとよくないポスターの見本（大きい紙に書いたもので一方はノートに書くサイズの字、他方は遠くからでも見える大きい字で書いたもの）
- お金：1セント、5セント、10セント、25セント、1ドル札、5ドル札、20ドル札（玩具ではなく実物を用意する）
- 白紙：レターサイズの4分の1のサイズ（カタカナカルタ用に人数分用意）
- ちらし用の白紙（イラストやふち飾りをつけたものを用意）
- クレヨン、マーカー、はさみ、のり、セロテープ、鉛筆、消しゴム、文字練習帳（常備品として各自毎週持参することになっている）

学習活動

1. チョコレート、クッキー、飴、ガムなどのお菓子を10個ずつ混ぜて、予めナイロンの袋に入れておく。
2. 学習者をグループ(二~三人一組)に分け、各グループに1のお菓子を配布する。ウォームアップとして、学習者にお菓子をグループ分けさせ、どうし

でそのように分けたかをクラス全体で話し合う。（ここで、学習者の思考力をインフォーマルに評価する⁶⁾）

3. プリント（巻末図4）のお菓子の名前をクラス全体で一緒に読む。次に、チョコレート、クッキー、飴、ガムのグループに分け、それぞれいくつあるかを数えてプリントに記入する。
4. クラス全体で各グループのお菓子の数を比較する。この時、助数詞(~個)を練習する。
5. グループワークに戻り、お菓子を高いと思うもの、安いと思うものに分ける。そう思った理由を話し合う。
6. お菓子の名前を読む。次に1セントコインと1ドル札を見せて貨幣単位をクラス全体で読み、用意したお菓子の値段の予想を話し合っけてプリント(図4)に記入する。
7. グループ活動終了後、クラス全体で結果を比べる。お菓子の仕入れ値から単価を割り出したものを板書し、各グループの予想と比べる。値段の予想ではお菓子の大きさと値段が比例すると考える子供もいるので、ここで理解を深めるため教師からの以下の質問を与える。

一番高いお菓子はどれですか。それは一番大きいお菓子ですか。どうして小さいお菓子（例　さいころあめ）が高くて、大きいオレオクッキーが安いと思いますか。（日本のお菓子は高いという答えがでたら、更にどうしてかを考えさせる）

8. お菓子の名前のカタカナ・ひらがなの書き方を見せてから、各自文字練習帳に3回練習し、レターサイズの4分の1の紙に一枚に一つ清書する。紛失を防ぐため、1枚ずつ裏に名前を書いておくよう指示する。書き終わったら、教師が間違いがないかチェックする。ペアを作り、相手に1枚ずつ見せて、何枚読めたかをスコア表（評価のセクションで紹介するポートフォリオに保存してあるもの）に記入する。次に、各自の作ったカードを全部混ぜてテーブルに置き、クラスを2チームに分け、カルタ取りの要領で読み上げられたお菓子のカードを競って取り合う⁷。

9. コインとお札を見せて、それぞれの貨幣単位を確認後、混ぜてテーブルに並べ、クラスを2チームか3チーム（各チーム2人から3人）に分け、カルタ取りの要領で読み上げられた貨幣を競って取り合う。

10. クラス全体で、足し算の練習を行った後、取ったコインやお札をチームで数えて合計を出す。次に1セントコインが5個あるといくらか、10個あるといくらかなどを練習した後、その式の書き方、そして1セントが5個あると5セントと等価であることなどを練習する（巻末図5参照）。

来週はハローウィンの前の週で、みんなでお菓子を売ることがを告げ、「ハローウィンお菓子屋敷」を導入。「屋敷」が「大きい家」を意味すること、このタイトルの由来、お菓子を売ってそのお金を何に使うか（例 ウサギの餌を買う）を話し合う。

11. お菓子を買ってくれる幼稚園部の子供達と保護者に連絡するための方法を話し合い、ポスターやちらしを導入する（初めて参加する子供達のためのブレインストーミングとなる）。ちらしを作成する。

ちらし作成では、まずブレインストーミングとして「ハローウィンお菓子屋敷がありますというお手紙の中に何をかきますか。一番知らせたいことは何ですか」という質問をして、出てきた答えを板書していき、いつ、どこで、何があるという情報が大切であるということがわかるようにする。

次にちらしを書く作業に移るが、書くという作業に慣れていない子供達、書くことは書くがちらしは書いたことがない子供達などレベルが異なるため、書き方の見本を見せるため、LEA (Language Experience Approach) を使用する。LEA は、書くことに慣れていない学習者に書き方を教えるためのアプローチで、学習者の発話をそのつど板書し、言葉の選択、文作り、情報の配列の仕方などを教師が学習者と話し合いながら指導していく。以下に手短に見本を紹介する。

教師：いまからハローウィンお菓子屋敷をしますよっていうお手紙を幼稚園のみんなとお父さんお母さんに書きますが、このお知らせのお手紙はちらしと言います。言ってごらん。ちらし。

子供：ちらし。

教師：早口言葉で5回言いましょう⁸。

子供：ちらし、ちらし、ちらし、ちらし、ちらし。

教師：じゃ、ちらしを書きますが、何を書かないといけませんか。皆に何を知らせますか。（「お菓子屋敷をします」「土曜日」などいろいろ答えがでるので、板書していき、重要な情報にしぼる）じゃ、何をすることがわからないと困るので、まず何をすることを書きましょう。なんて書きますか。（子供が言ったことをそのまま板書して、音読をする。以下板書の部分を四角で示す）

ハローウィンおかしやしきをします。

次に何を書きますか。これだといつするかわかりませんね。

ハローウィンおかしやしきをします。10月21日。

10月21日。全部言うと、10月21日にします。言ってごらん。書きますよ。よく見ててね。

ハローウィンおかしやしきをします。10月21日にします。

10月21日って何曜日ですか。じゃそれも書いたほうがよくわかりますね。

ハローウィンおかしやしきをします。10月21日土ようびに
します。

(この活動は、小銭をもってくださることやお菓子を買ってくださいというお願いを書き、最後に名前と手紙を書いた日付を入れるところまで続く)

この作業が終わったら、クラス全体で板書したものを音読の後、ペアで音読をし、その後文字練習帳に書写をする。教師のチェックのあと、ちらしの用紙に清書する。最後に必要な枚数をコピーして配布する。

12. 販売の時の「いらっしゃいませ」「ありがとうございました」「おつりです」という表現を練習する。

13. お菓子の名前や貨幣単位(セント、ドル)をフラッシュカードで見せて読む練習をする。

中・高学年(合同授業)

用意するもの

- お菓子の値段を記入する用紙(毎年行うので2年目からはその前の年に決めた値段を参考に入れておく)
- ポスター用の大きいサイズの紙
- いいポスターとよくないポスターの見本(大きい紙にかいたもの)
- 白紙: レターサイズの4分の1のサイズ(語彙カルタ用に人数分用意する)
- お菓子寄付お願いの手紙の便箋(または絵やふち飾りをつけた紙)

- クレヨン、マーカー、はさみ、のり、セロテープ、鉛筆、消しゴム、
文字練習帳（常備品として各自毎週持参することになっている）

学習活動

1. ブレーンストーミングとして、ハローウィンお菓子屋敷をするために何を話し合っ
て決めなくてはいけないかを尋ね、板書していく。（2年目からは前年度に経験した高学年の子供に司会をしてもらう）

例 どんなお菓子を売るか、いくらで売るか、どんな入れ物に入れるか、どんな格好をするか（ハローウィンコスチューム）、どこで売るか、どんな係りがいるかなど。大切な事項が抜けている場合は最後に教師が追加する。リストした項目を用紙（巻末図6）に記入する。板書したものは漢字、かなの間違いを訂正したあと書写する。（2年目は前年度のお菓子と値段のリストを使い、お菓子の名前を音読してカタカナの復習を入れる）

2. 高学年から話し合いの司会をする子供、板書する子供を選ぶ。お菓子の選択、値段設定の話し合いは時間がかかるため、第1日目の半分はこの作業にあてる。話し合いは、本題からの逸脱や他の子供の発言を聞いていない子供もいるので、教師は軌道に戻す助け役となる。板書に時間がかかりすぎる場合は、教師が板書をする。

3. お菓子寄付のお願いの手紙を書く。手順は低学年のちらし作成と同様にLEAを用いて、必要な事項を入れ、丁寧な表現や手紙のフォーマットを指導する。板書したものを音読して、練習帳に書写し、中学年と高学年の組み合

わせでペアを作り、書いた手紙を交換して正しく書けているかチェックする。必要であれば教師の助けを借りる。最後に便箋に書写し、必要な枚数をコピーして配布する。

4. 「お菓子、お菓子屋敷、売る人、入れる、仕事」など関連語彙をカードに書いて読みの練習をする。2チームに分かれて早く読めたら得点を与え、高得点のチームが勝つというゲームをしたり、ビンゴゲームにしたりする。お菓子の名前はカタカナで書けるように練習をする。

低学年・中学年・高学年（合同授業）

1 日目の最後の時間は3学年合同授業で、ポスターの製作をする。

1. ポスターの機能を理解するために、ブレインストーミングとして、あらかじめ用意した、いいポスター（必要な情報が入っている、遠くからでも見えるように大きい字を使う、内容を人目を引く絵で表している、読みやすい、綺麗、宣伝文句）とよくないポスターを見せて、どちらがいいか、どこがちがうかを話し合う。

2. 各学年から一人ずつ計3人を1グループとして作業をする。高学年が班長となり作業を行う。Piagetの発達理論に従い、目で見て手で触れる具体的な作業から言語のみに頼る抽象度の高いものまでを各学年の児童に割り当てる⁹。絵とタイトルの大きい文字の担当は低学年、日時・場所の情報と絵のキャプション記入は中学年、言語情報のみに頼るため認知力の要る作業である効果

的な宣伝文句の作成は高学年が担当する。完成後、外の目に付くところに貼り出す。

<学習活動例: 2日目>

低学年・中学年・高学年（合同授業）

用意するもの

- お菓子を入れるバスケット（お菓子の値段の種類分 x 班の数）
- お菓子（各家庭からの寄付）
- 値段とお菓子の名前を書くラベル（5 x 3 インデックスカード大）
- レジスター（事前に家庭にある玩具のレジスターを借りる）
- 販売用テーブル
- テーブルに飾るハローウィンの小物
- クレヨン、マーカー、はさみ、のり、セロテープ、鉛筆、消しゴム、
文字練習帳（常備品として各自毎週持参することになっている）

学習活動

1. 低学年・中学年・高学年の各学年から2人ずつ、計6人で班を作り、高学年2人が班長となる。1日目の活動で決めた価格に従って、お菓子を入れるバスケットに値段とお菓子の名前のラベルを作って貼る。教師は各班のラベルをチェックした後、持ち寄ったお菓子を各班に種類と量が均等になるように配布する。（種類や量に不均等が生じ、班同士の取り合いになるのを防ぐために、お菓子はまず一箇所に集め、そこから各班に配分をする方がよい）

2. 係りの確認をしたら、テーブルを設置し、模擬練習を行い、班に分かれて販売開始。
3. お客さん（幼稚園部の子供達）は会場入り口で、まず買ったお菓子を入れる袋に各自名前を書き、会場に入ってお菓子を買う。販売中は教師は巡回し、助けのいるグループについたり、活動に参加していない子供を班に戻したりする。
4. 販売終了後、後片付をし、売り上げは班別に保管する。ポスターは3日目の学習でポスターの質の評価の練習に使うので、保管しておく。
5. 1日目と同様、関連語彙の練習をする。

<学習活動例: 3日目>

低学年・中学年・高学年（合同授業）

用意するもの

- 売り上げ金
- 売り上げ計算を記録する用紙
- コインを入れる袋（銀行で Coin sleeve という入手できる）
- クレヨン、マーカー、はさみ、のり、セロテープ、鉛筆、消しゴム、
文字練習帳（常備品として各自毎週持参することになっている）

学習活動

1. 2日目と同じメンバーで班を作り、売り上げの計算をする。コインを数え、記録する（巻末図7）。低学年はコインをより分け、数えるところだけを担当

する。中学年・高学年で合計を出す。この算数の問題はこの日の後半に学年別で詳しく導入と練習をする。

2. 班のメンバー全員が記録を終え、班長が書いたものをチェックしたら、教師からコインを入れる袋をもらい、班で袋詰めをする。コインロールを数えて記入する(巻末図7)。班長は各班の売り上げの合計を出し、全体の売り上げ合計を出すため、それを黒板の表に記入する。

3. 教師が全員に分かるように、計算のプロセスを声を出して言いながら、計算をする。

4. 全体で反省として、問題点、来年どうしたらいいかを話し合う。

<学年別授業>

低学年

用意するもの

- お礼のポスターを書く用紙
- 算数の計算練習の問題（各学年別）

学習活動

1. お礼のポスターを書く。宣伝のポスターと同じ要領でLEAで書く。
2. 算数の計算練習。売り上げのコインの記録用紙（巻末図7）を使って計算練習をする。2桁の足し算、文章題、引き算、等価値の練習をする。図7を見ながら黒板にコインを書いて、1セントがいくつあったか、合計で何セントかを話しながらすすめる。足し算の+記号を使って表す。子供達にプリン

トに記入させながら進める。5セント、10セントも同じようにする。図8(巻末)にその他の練習を1例ずつ挙げる。図8の5番の等価値の計算では、まずクラス全体でコインを使って、合計が25セントになるコインのいろいろな組み合わせを練習した後で、文章題に移行する必要がある。必要に応じて、類似問題の量を増やし練習をする。時間が不足する場合は4日目の学習活動として算数の計算練習をしてもよい。また、クラスで導入したことを家でもできるように宿題としても似た問題を課す。

3. コイン別の合計を棒グラフにする。どのコインの合計が多かったか、少なかったかの比較をする。

4. お菓子販売に関連する漢字語彙の読みとお菓子の名前のカタカナの読み、書きの練習をする。

中学年

用意するもの

- お菓子を買ってくれた子供達にお礼の手紙を書くための便箋
- 算数の計算練習の問題（各学年別）

学習活動

1. お菓子を買ってくれた子供達にお礼の手紙を書く。お願いの手紙と同じ要領でLEAを使用する。

2. 算数の計算練習。中学年は、割り算を使って単価を出す計算、売値に個数をかけて売り上げを出す計算とその式の書き方、分数の概念の練習をする。

割り算は2桁以上の数を一桁で割るのがスタンダードの目標であるので、仕入れ値を3桁にしお菓子の個数を一桁にしたもので練習をする。例えば3ドル20セントのオレオクッキーに8つパッケージがある場合、1パッケージはいくらになるかという計算を、図を描いて具体的に示しながらクラス全体で練習する。2-3問全体で練習した後、プリントの類似問題を個別に解く。

お菓子屋敷で売るお菓子の値段の表を見ながら、一つ25セントのさいころあめを2個売るといくらかという計算を説明して、 $25 \times 2 = 50$ という式の書き方を説明する。クラス全体で2, 3問類似問題を一緒に解いてから、プリントに用意した問題を各自練習する。分数の概念は、25セントコインを2つ用意し、合計が50セント、その半分は、2分の1 ($1/2$) という表現を導入する。10セント、100セントで練習問題をする。

3. 仕入れ値と売り値の概念の理解とその計算、及び用語を覚える。図9、図10 (巻末) のプリントの順にしたがって、その内容を口頭で説明しながら、クラス全体で問題を解く。その後プリントを配布して、ペアで音読しながら答えを書いていく。

4. 仕入れ値、売り値、利益、お菓子の読みの練習。

高学年

用意するもの

- お菓子を寄付してくれた保護者へのお礼の手紙用便箋
- 算数の計算練習の問題 (各学年別)

学習活動

1. お菓子寄付のお礼の手紙を保護者を書く。LEA を使って、いつ、どこで、何をしたか、売り上げと利益がいくらだったか、感想、協力のお礼を入れて、丁寧な文体を使い、筋の通った手紙を書く。練習帳に書写後、隣の人に回し、図 1 1 (巻末) の基準でチェックする。終わったらそのまた隣の人に回しチェックする。これを 5 回繰り返す。この学習活動の目的は、手紙に必要な情報を書くという知識の定着と、お互いにチェックする peer reading に慣れることと、同じ内容だが別の人が書いたものなので飽きずに 5 回読むことで読みのスピードを上げることにある。便箋に清書して、必要な枚数をコピーして配布する。

2. 仕入れ値の～パーセントが利益になるという計算練習をする(巻末図 1 2)。

3. 仕入れ値の計算で 3 桁と 2 桁の割り算を練習する (巻末図 1 3) 。

4. 未知数を X として 1 次方程式を解く練習をする (巻末図 1 4) 。

5. 作成したポスターを黒板に貼り、基準(巻末図 1 5) に従って評価する。

全員の評価の得点を合計して一番得点の高かったポスターはどれか、どうしてよかったかを話し合う。

6. 語彙練習。難しい表現の言い換え練習と漢字の読み書きの練習。

例 販売 (売る) 、計算 (数えること) 、合計(全部あわせること)

<宿題>

宿題は低学年、中学年、高学年を通して、教科内容と日本語に関するものの2種類からなる。教科内容はその日に導入したものが定着して、助けなしにできるようにするために、類似問題が出される。日本語は語彙、漢字、文法に関するものと、必要に応じて家の人にインタビューをするオーラルのタスクや、読みのタスクが出される。一年に一回の「ハローウィンお菓子屋敷」プロジェクトでは学習した語彙や漢字を忘れてしまうため、語彙・漢字の定着を図って三回の授業で同じものを繰り返し練習する。以下、図16から図21(巻末)に低学年、中学年、高学年の宿題のサンプルを挙げる。

先に述べたように継承語の学習者には言語力に著しい違いがあるため、宿題でアウトプットを要求する問題は、調整が必要となる。言語力が低い場合は言葉で答える代わりに絵を書かせたり、線で結ばせたり、選択肢から選ばせたり、また文章で書かせる代わりにO・Xの何れかを選ぶ形にする。言語力が高い場合は答えを記述することが課せられる。図22、23(巻末)は高学年のお菓子屋敷の反省レポートを書くという宿題である。図22は言語力が低い学習者用で図23は高い学習者用である。前者は、質問を読んでO・Xで答える形になっているが、後者の宿題はキュー無しで自分で書くことが要求されている。

(4) 評価

最後に評価について検討する。評価には2種類あり、一つはカリキュラムを評価するもの、もう一つは学習者の学習の進み具合を評価するものである。

カリキュラムの評価は、デザインした学習目標が達成されたか、達成されていない場合どこに問題があるのかを調べ、カリキュラムに修正を加えるために行うものである。この評価は学期や学年度の終わりに行うものではなく、授業と平行あるいはトピックの終わりなどにおこなう **formative evaluation** というタイプの評価である。図 2 4 (巻末) にカリキュラムの評価基準例をあげる。この評価基準は、中島&鈴木 (1997, p.159) に追加項目を加えた (図の*印の項目) ものである。

各学習者の学習進度を評価する方法としては、ポートフォリオと単元小テストの2種を用いるが、以下に説明をする。

ポートフォリオによる評価

ポートフォリオとは、各学習者の学習の進み具合を記録するため、学習者の書いたもの (例 ちらし、お菓子屋敷のお菓子寄付をお願いする手紙、お礼の手紙)、クラスで使ったプリント、漢字ゲームの得点を記入した用紙などを保存したファイルを意味する。このポートフォリオには、各トピックの学習目標が達成できているかどうかを見るために、図 25 (巻末) のような評価基準用紙も保存する。この評価基準では学習目標を評価項目とする。各項目は3段階評価で、学習活動が「他の人の助けを借りてできた」か、または「一人でできたか」を評価する欄を設け、一人でできるようになった時点で学習目標が達成できたと判断する。これは、先に述べた「学ぶ」というプロ

セスが誰かに助けられて始まりやがて独立してできるという Vygotsky の ZOPED(Cole et al. 1978)の考えに従ったものである。

単元小テスト

単元小テストはその課で導入した語彙・漢字と教科内容の知識の定着度を調べるためにトピックの終わりに実施する。語彙・漢字小テストは教師が選んだものをテストする方法もあるが、学習者個々に何を覚えているかを調べるために、白紙にその課で習ったもので覚えているもの、書けるものを書く自由放出方法を使っている。漢字が書けない時は、ひらがなで書いてもいいことにしており、語彙と漢字の力を分けて評価する。教科内容の知識の定着を測るときは、クラスで使ったプリントと宿題に出したアクティビティに似たものをテスト問題として出す。また、ハンズオンで行なったもの（例 他のトピックで学習した際に実験をした場合）は、ハンズオンでテストをして、一人でできるかどうかを評価する。

まとめ

本稿ではプロジェクトアプローチを年少者の継承日本語教育に応用した学習活動のデザインのプロセスと具体的な学習活動を紹介した。特に本稿では、このアプローチを、小学部全学年が売り手、幼稚園部がお客さんになり、全校をあげての合同プロジェクトにしたものを紹介した。合同プロジェクトは一学期に一回、一年に二回実施しているが、毎年同じトピックで行うため、初めてそれを経験する低学年が、中学年、高学年と上がるにつれ、多岐に渡

る領域で成長がみられる学習活動として評価できる（日本語力、売買という概念の理解力、考える力、習う側から、やがて年齢の下の子供達を引っ張っていく力）。トピックはお菓子の販売に限らず、各学校、プログラムでユニークなものを選ぶことも可能である。

このプロジェクトアプローチの成果については、まず教科内容の学習目標到達はむろん、学習者により異なる。例えば売り値や売り上げの計算が人からの助けがあればできるレベルにいる学習者、あるいは一人でできるレベルに到達した学習者など、レベルに差がある。また、言語力も個々に達成度が異なるが、同じようなプロジェクトを繰り返すごとに学習者の評価は向上し、結果としてプロジェクトアプローチの成果が見られる。例えば、保護者から「売り上げ、仕入れ値、販売など学習した語彙を普段の会話の中で使うようになった」「日本語学校に嫌がらずに行くようになった」という話を聞く。また教える側の評価としては、このハローウィンお菓子屋敷プロジェクトではポスター作り、お菓子の値札付け、売り上げの勘定・計算などの教科内容の知識やスキルに関することが年々手際よくできるようになり、また合同作業のグループ学習の際、高学年から低学年への会話に英語へのコードスイッチをできるだけせず、日本語で指示を出すことも定着してきている。

このような学習活動は可能な限り「本物」に近づけるということが大切である。例えば、扱うお金も実物を用いることで子供達の学習動機に大きな影響を与えるものとする。外国語教育でも *authentic activities/ materials* という

ことが言われて久しい (Gilmore 2004; Liao 2000; Omagio Hadley 2001)。

Athentic かつ genuine (日本語ではこの2つの語は同じ意味になるが、学習者が「本物」とみなさない限り、いくら authentic の教材を使っても genuine とは言えない) ことを念頭において学習活動のデザインをすることが重要であると考える。

参考文献

- ダグラス昌子、片岡裕子、岸本俊子 (2003) 「継承語校と日本語補習校における学習者の言語背景調査」. 『国際教育評論』 Vol.1:1-13
- 片岡裕子、古山弘子、越山泰子 (2001) 「南カリフォルニア日本語学園会議とアンケート結果分析報告書」. 『ブリーズ』 Vol.22:1-3. 2006年 1月
<http://www.jflalc.org/download/publication/BREEZE22.pdf> よりダウンロード.
- 中島和子 (1998) 『バイリンガルの方法』アルク.
- 中島和子 (1988) 「日系高校生の日本語力-カナダ・トロントの日本語学校卒業生の事態調査より-」 『移住研究』 Vol.25:1-14.
- 中島和子 & 鈴木美智子 (1977) 『継承語としての日本語：カナダの経験を踏まえて』 Ontario, Canada: Soleil.
- Brinton, D.M., & Holten, C. (1997). Into, through, and beyond: A framework to develop content-based material. *Forum*, 35, 10-39. Retrieved April, 2006, from <http://exchanges.state.gov/forum/vols/vol35/no4/p10.htm>.
- Brinton, D. M., Snow, M.A., & Wesche, M.B. (1989). *Content-based second language instruction*. Boston, MA: Heinle & Heinle Publishers
- Brook, K. L. (1988). *Language maintenance in the Japanese American community in the Los Angeles area*. Unpublished master's thesis, California State University, Long Beach, Long Beach, California.
- Campbell, R.N., & Rosenthal, J.W. (2000). Heritage languages. In J.W. Rosenthal (Ed.), *Handbook of undergraduate second language education* (pp.165-184). Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum.
- Chard, C. C. (1998). *The project approach: Making curriculum come alive*. New York, NY: Scholastic.

- Cole, M., John-Steiner V., Scribner S., & Souberman E. (Eds.) (1978). *L.S. Vygotsky. Mind in society. The development of higher psychological processes*. Cambridge, Massachusetts: Harvard University Press.
- Curtain, H., & Dahlberg, C. A. (2004). *Languages and children: Making the match*. New York: Pearson.
- ERIC L & L Digest. (1995). Integrating language and content: Lessons from immersion. Based on Genesee, F. *Integrating language and content: Lessons from immersion*. National Center for Research on Cultural Diversity and Second Language Learning. Retrieved April, 2006, from <http://www.cal.org/resources/digest/ncrcds05.html>.
- Gilmore, A. (2004). A comparison of textbook and authentic interaction. *ELT Journal*, 58, 4, 363-374.
- Hart, C., Burts, D. C., & Charlesworth, R. (Eds.). (1997). *Integrated curriculum and developmentally appropriate practice: Birth to age eight*. New York: State University of New York.
- Kandel, E.R., & Hawkins, R.D. (1992). The biological basis of learning and individuality. *Scientific American* 267, 3, 78-86.
- Katz, L. G. (1997). The project approach. *ERIC Digest*. EDO-PS-94-6.
- Katz, L. G., & Chard, S. C. (1997). *Engaging children's minds: The project approach*. Norwood, NJ: Ablex.
- Krogh, S. L. (1997). How children develop and why it matters: The foundation for the developmentally appropriate integrated early childhood curriculum. Hart, D., Burts, D.C., & Charlesworth R. (Eds.). *Integrated curriculum and developmentally appropriate practice: Birth to age eight* (pp. 29-50). New York: State University of New York.
- Liao, X. Q. (2000). Communicative language teaching: Approach, design and procedure. ERIC document reports. Retrieved April, 2006, from <http://firstsearch.oclc.org.mcc1.library.csulb.edu/WebZ/FSFETCH?fetchtype=fullrecord:sessionid=fsapp6-47866-elu0bnop-kc412x:entitypagenum=11:0:recno=23:resultset=3:format=FI:next=html/record.html:bad=error/badfetch.html:entitytoprecno=23:entitycurrecno=23:numrecs=1>
- Ommagio Hadley, A. (2001). *Teaching language in context* (3rd ed). Boston, MA: Heinle & Heinle.
- Polinsky, M. (2000). A composite linguistic profile of a speaker of Russian in the

- U.S. O. Kagan and B. Rifkin (Eds.) *The learning and teaching of Slavic languages and cultures* (pp.437-465). Bloomington, Indiana: SLAVICA.
- Sasaki, M. (2001). Japanese as a heritage language classes in Hawaii and Brazil: Their differences and similarities. Paper presented at the annual meeting of the Association of Teachers of Japanese Seminar. Chicago, IL. Retrieved May, 2005, from <http://www.japaneseteaching.org/ATJseminar/2001/sasaki.html>.
- Spanos, G. (1989). On the integration of language and content instruction. *Annual Review of Applied Linguistics*, 10, 227-240.
- Stryker, S. B., & Leaver, B. L. (1997). *Content-based instruction in foreign language education*. Washington, DC: Georgetown University.
- Valdés, Guadalupe. (1995). Teaching of minority languages as academic subjects: Pedagogical and theoretical challenges. *Modern Language Journal* 79, 299-328.
- Valdés, Guadalupe. (2001). Heritage language students: Profiles and possibilities. Peyton, J. K., Ranard, D.A., & McGinnis, S. (Eds.). *Heritage languages in America: Preserving a national resource* (pp. 37-77). McHenry, IL: Center for Applied Linguistics and Delta Systems.
- スタンダード文献
- California Department of Education. (1999). *Mathematics content standards*. Sacramento, CA. Retrieved January, 2006, from <http://www.cde.ca.gov/re/pn/fd/documents/math-stnd.pdf>.
- National Council of Economic Education. (1999). *The voluntary national content standards in economics*. New York, NY: National Council on Economic Education. Retrieved January, 2006, from <http://www.ncee.net/ea/program.php?pid=19>
- New York State Education Department Office of Bilingual Education. (2004). *Teaching of language arts for limited English proficient/English language learners: Learning standards for native language arts*. Albany, New York: State Education Department. Retrieved January, 2006, from <http://www.emsc.nysed.gov/ciai/biling/resource/NLA/CH0intro.pdf>.

著者注

謝辞

本稿をまとめるにあたり、査読及び編集担当の方に貴重なコメントをいただいた。本稿の全ページを注意深く読み、内容が十分に議論されていないと

ころや表現の不十分なところに逐一注意深い指摘をいただいた。ここに深く謝意を表したい。

著作権

本稿に掲載したカリキュラム及び教材は著作権を有しており、非営利団体である教育機関での教育目的での使用に限り、複製およびその使用を許可する。営利団体及び利益をあげる目的での使用はお断りする。スタンダードの引用に関しては、著作権を有する各機関から直接許可を得て頂きたい。

本稿でのスタンダードの引用に関しては、下記の機関からの許可を得た。
(*は指定の Credit Line を示す)

1. California Department of Education. (1999). *Mathematics Content Standards*. Sacramento, CA.
*Reprinted, by permission. California Department of Education, CDE Press, 1430 N Street, Suite 3207, Sacramento, CA 95814.
2. National Council of Economic Education. (1999). *The Voluntary National Content Standards in Economics*.
*Used with permission. *Voluntary National Content Standards in Economics*, copyright © 1997, National Council on Economic Education, New York, NY. All rights reserved. For more information visit www.ncee.net or call 1-800-338-1192.
3. New York State Education Department Office of Bilingual Education. (2004). *Teaching of language arts for limited English proficient/English language learners: Learning standards for native language arts*.
Permission granted by NYS Education Department, Office of Facilities & Business Services, 89 Washington Avenue, Albany, NY.

注

1. この意味では、日本の文部科学省作成の学習指導要領の総合的な学習も、各教科で身につけた知識や技能を関連付けるための学習時間を設けるという記述から、まず教科別学習があり、総合的な学習の時間が別にあると解釈できる。従って学習指導要領の総合的な学習とは、基礎をしてから応用として使われる外国語のプロジェクトワークと似ており、初めから学習目標達成のために必要な教科を取り込んでいく本稿で使うアプローチとは性質を異にするものである。

2. ここでいう「学習者主体」とは、学習者が学習活動や内容を勝手に選べるという意味ではなく、年齢相応の認知力を要求する学習目標や学習内容選定にあたって、教科書に書いてあるものから出発するのではなく、学習者の既に持っているものを土台に積み上げていくという意味である。

3. Vygotsky は子供の発達理論の中で、子供が他からの助けなしに問題解決ができるレベルを *actual developmental level* とし、大人からの助けまたは他の子供との協同作業をすることで問題解決ができるレベルを *potential development* とし、この2つのレベルの領域を "*zone of proximal development*" と名づけた。Vygotsky は子供が知識やスキルを習得していくということは、この *potential level* がやがて *actual level* に変わ

っていくという見方をしている。本稿のプロジェクトでの具体例をあげるなら、はじめてプロジェクトに参加する低学年はお菓子販売の全プロセスをすでに経験したことのある中・高学年の子供達との協同作業で学び(potential development)、このプロジェクトの回を重ねるに従って助けなしに遂行できるレベル(actual development level)に到達する。また、actual levelに到達した子供達は potential levelにいる子供たちとの協同作業をリードし、また自分が理解していることを試行錯誤ではあるが回を重ねるにつれ、相手にわかるように日本語で伝えられるようになる。

4. 本稿のアプローチが使われているプログラムは、小学部は学年で分けるのではなく、年少者の成長の差を考慮し、2学年から3学年をひとつのレベルにするマルチレベル方式を採用している。レベル分けは1,2年生を低学年、3,4年生を中学年、5,6年生を高学年としているが、学年間をはっきりと区切ることはせず、言語力、認知力の発達の違いに応じて3年生でも低学年に入ったり、4年生でも高学年に入ることもある。

5. お菓子の名前をカタカナで書くことを低学年の学習目標として入れる理由は、カタカナの50音表を順に学習しても実際にそれが使われる場面が欠如していたり、何度も目にすることがない場合、すべてのカタカナを覚えていることは困難である。「言語力からみた継承語の特性」のところでも述べたように、継承語教育では未発達のところを逐次補強していくというアプローチを取るため、カタカナや語彙（例えばクラスでの教師と児童との対話の見本をあげたところにある「ちらし」という普段耳にしない語彙）という小さい単位でも必要に応じて学習目標に入れる必要がある。しかし、小さい単位を学習するからといって、言語力がそのレベルだということではない。同じく教師と学習者との対話見本の中の、教師の使う日本語が談話のレベルでの発話であり、学習者がそれを理解していることに注目されたい。

6. この作業での学習者の思考力のインフォーマルな評価とは、お菓子を分類するときどういう基準を使ったかを調べるものであり、どうしてそのように分けたかを聞くと「好きだから」という答え、「大きいお菓子対小さいお菓子で分けた」という答え、「ガム・飴・チョコレートだから」という答えなどが返ってくる。Piaget (Krogh 1997)は子供の発達を4段階に分けているが、その中でも第2段階(preoperational period と呼ばれ、3歳から8～9歳がこのレベルに入る)から第3段階(concrete operational period と呼ばれ10歳から小学校が終るまで)が本稿の継承日本語学習者に該当する年齢である。この2つの時期に子供達は自己を中心とした考えから論理的な理由付けができる段階へと成長する。先の例でみると、お菓子の分け方の理由で好きだからという答えは第2段階であり、サイズあるいはお菓子の種類で分類ができるというのは第3段階に入ったものと判断する。

7. この学習活動もカタカナ語の定着を目指すものであるが、脚注5で述べたように定着していない領域の補強としての学習活動であり、すべての学習活動が単語や文字レベルで終るわけではない。

8. この学習活動は、普段耳にしたことはないがお菓子の販売では重要な「ちらし」という語へ注意を促す(conscious raising)ために行うもので、早口言葉でゲーム性

を持たせた練習を試みたものである。他に一人ずつ順番に言わせて時間を測り、2-3回して時間が短縮したかどうかを競うのも一案である。

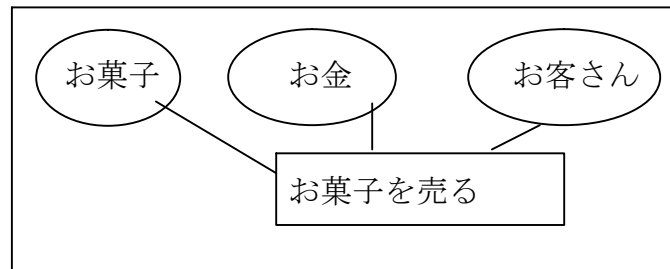
9. Piaget の発達理論では、8～9歳を境に第2段階の *preoperational period* から第3段階の *concrete operational period* に移行するとあるが、学習者全員がこの年齢に達したからと言って第3段階に移行するとは限らない。8～9歳は中学年に該当するが、学習者の成長に応じて学習活動のレベルを調整する必要がある。中学年でも必要に応じて低学年あるいは高学年の活動をさせることが可能である。1年ごとに次の学年に進まなければならない単一学年制と比べ、マルチレベルのクラスではこの調整がしやすい。

図表

図1. プロジェクトアプローチと従来の教科学習との違い

プロジェクトアプローチ	従来の教科学習
動機：子供が知りたい、してみたいと思うことが動機となる。	動機：教師が言うことに従い、教師の質問に答え、それが正しいと褒められる。褒められるから勉強する。
子供が教師から与えられた多種の学習活動の中から自分で選ぶ。子供自身が難しいレベルに挑戦しようとする。	教師が子供のレベルに合った学習活動を選び、教材を与える。
子供が自身で選んだトピックの専門家となり、教師は子供の能力を生かす学習活動をデザインする。	教師が専門家であり、子供ができないところを補強することが焦点となる。
学習と学習目標達成に関しては教師だけでなく子供自身も責任をとる。	学習と学習目標達成の全責任は教師がとる。

図2. アイデアウェブ



上記のアイデアウェブは、教師と子供達の間でのやり取りから出たアイデアのキーワードだけを黒板に書き出し、お菓子を販売に必要な概念の関係を子供達に明示するためのものである。従って発話全部を書き出したものではない。実際の発話には、「お金を使う」「お菓子を売って、買いたい物を買って」「ハーシーのチョコレートとオレオクッキーがいい」などさまざまな言語表現が見られた。

図3. 学習活動の構成

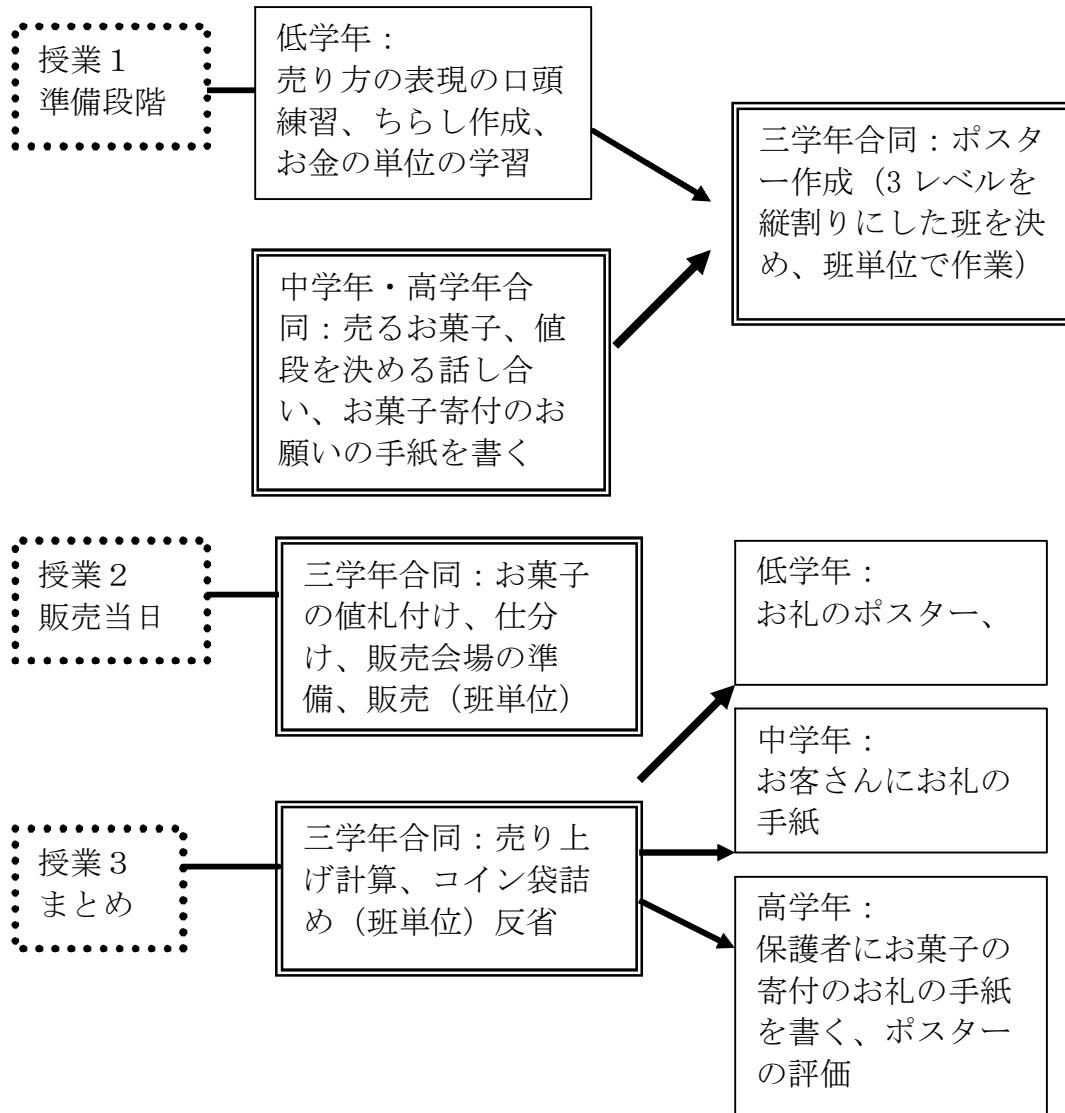


図 4. 記録用紙：お菓子の仕分け

名前 _____ ^{がつ}月 _____ ^{か・にち}日 _____ ^{ようび}曜日

1. お菓子^{かし}を分けて数え^{かぞ}ましょう

お菓子 ^{かし}	いくつありますか
チョコレート	_____こ
クッキー	_____こ
ガム	_____こ
あめ	_____こ

2. お菓子^{かし}はいくらだと思^{おも}いますか

お菓子 ^{かし}	一個 ^{いっこ} いくらだと思 ^{おも} いますか
ハーシーキス	ドル _____ セント
オレオクッキー	___ドル _____ セント
さいころあめ	_____ドル _____ セント
フルーツガム	_____ドル _____ セント
M & M	_____ドル _____ セント

図5. 算数の足し算と等価値の概念 (板書用)

1セントのコインを集めてみよう

① ① ① ① ① \Rightarrow 5

$1+1+1+1+1=5$

① ① ① ① ① ① ① ① ① ① \Rightarrow 10

$1+1+1+1+1+1+1+1+1+1=10$

⑤ ⑤ ⑤ ⑤ ⑤ \Rightarrow 25

$5+5+5+5+5=25$

25 25 25 25 \Rightarrow 100 1ドル

$25+25+25+25=100$ (1ドルと同じ)

図6. ハロウィンお菓子屋敷準備の話し合いの記録用紙

かしやしき
ハロウィンお菓子屋敷

名前 _____ 月 _____ 日 _____ 曜日



じゅんび
準備のための話し合い

売るもの	
おかしを入れるもの	
いくらぐらいで売る	
どんなかっこうで売る	
みんなに知らせる方法 (どうやって知らせるか)	

かし ねだん
売るお菓子と値段


かし 売るお菓子	ねだん 値段

しごと
売る日の仕事

しごと 仕事	かか 係りの名前

こんど
今度の土曜日に持ってくるもの：

図7. 売り上げ記録用紙

やしき
ハローウィンお菓子屋敷 売り上げをかぞえましょう


がつ か・にち ようび
 名前 _____ 月 _____ 日 _____ 曜日

1. 売り上げのコインを数えて表に書きましょう。

お金	よ <small>かた</small> 呼び方	いくつありま したか	いくらですか
1セント	ペニー		
5セント	ニッケル		
10セント	ダイム		
25セント	クォーター		

お札 さつ

お金	何枚ありましたか	いくらですか
1ドル		

全部 ぜんぶ でいくらですか。

ここまでできたら、班長 はんちよう はグループの皆 みな のプリントをチェックして、
 できていたらはんこ お を押してあげてください。そして、先生からコインロ
 ールの袋 ふくろ をもらってお金をつめてください。

2. コインロールはいくつできましたか。袋 ふくろ に入らなかったお金はいく
 らありますか。

お金	コインロールはいく つできましたか	あまったお金
1セント		
5セント		
10セント		
25セント		

図 8. 低学年の算数の計算練習（一例）

けいさん
 コインの計算をしてみよう

がつ 月 か・にち 日 ようび 曜日

名前 _____

1. しき 式を か 書きましょう。

- 1セントのコインが5こあります。いくらですか。
- 1セントのコインが25こあります。いくらですか。
- 5セントのコインが5つあります。いくらですか。

2. 計算をしましょう。

$1 + 2 =$ $5 + 6 =$ $10 + 10 =$ $25 + 30 =$

3. （足し算の文章題の例）ハローウィンのお菓子屋敷でお菓子を買いました。ハーシーキス1こ（10セント）とフルーツガム1こ（25セント）を買いました。いくら払いますか。

4. （足し算と引き算の文章題の例）ハローウィンのお菓子屋敷でお菓子を買いました。オレオクッキー1こ（20セント）とさいころあめ1こ（25セント）を買いました。いくら払いますか。

1ドル札がありますがコインがありません。1ドル札をはらうとおつりはいくらですか。

5. （コインと等価地の練習例）ハローウィンのお菓子屋敷でお菓子を買いました。25セントは払います。どのコインがいくつありますか。

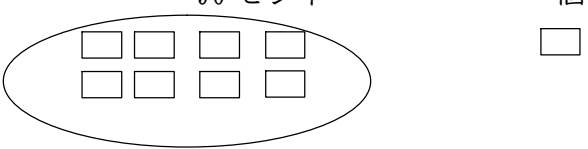
- 1セントコインをはらう→ _____ こ
- 1セントコインと5セントコイン→1セント _____ こ、5セント _____ こ
- 5セントコインと10セントコイン→ 5セント _____ こ、10セント _____ こ

図9. 仕入れ値と売り値の学習 (その1)

しいれ ね ね
仕入れ値と売り値 名前 _____ 月 _____ 日 _____
(ようびを漢字書いてください)

お母さんが、ハローウィンおかし屋敷で売るふうせんガムをお店で
買ってくれました。8個で96セントでした。一ついくらですか。

96セント 一個



- 買ってきたときの値段を仕入れ値といいます。ふうせんガムの仕入れ値は、
一個 _____ セントです。
- おかし屋敷で売ったときは、一個 15セントでした。売るとき
の値段を売り値といいます。ふうせんガムの売り値は、一個
_____ セントです。

う ね しいれ ね りえき
売り値が仕入れ値より大きいとき、お金がふえるので利益があると
しいれ ね りえき
います。売り値が仕入れ値より小さいとき、そんをするので利益
がないといいます。ふうせんガムは利益がありますか、ありません
か。

しいれ ね 仕入れ値	仕入れ値 (1つ)	売り値 (1つ)	りえき 利益
ふうせんガム： 8こ96セント	12セント	15セント	ある/ない
クッキー： 12ドル80セント		25セント	ある/ない
グミ：15こ3ドル		25セント	ある/ない
チョコレート： 50こ6ドル		5セント	ある/ない

図 10. 仕入れ値と売り値の学習（その2）文章題計算例

おかし屋敷で売るキャラメルを店で買いました。20こで2^{しいれ ね}ドルでした。仕入れ値は、一ついくらですか。

こたえ
答： _____ セント

りえき
利益が5セントあるためには、売り値をいくりにしますか。

しいれ ね
仕入れ値
セント

+

りえき
利益
5セント

=

ね
売り値
セント

りえき
利益が10セントあるためには、売り値をいくりにしますか。

りえき
利益が15セントあるためには、売り値をいくりにしますか。

りえき
利益が25セントあるためには、売り値をいくりにしますか。

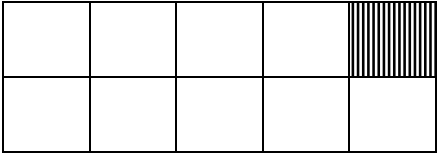
図 11. Peer reading の基準

お礼の手紙を読んで、大切なことがはいつていたら、表に0をつけてください。終ったら、左の人に渡してください。

手紙を書いた人の名前	いつしたか書いてある	どこでしたか書いてある	売り上げのことを書いてある	お礼の言葉を書いてある

図 12. パーセントの概念

チョコレートが10個あります。この1個は10個の中の一つなので、10分の1 (1/10)です。これを全体(10きれ)の10パーセントといいます。%を使います



1個だと→10パーセント (%)
 2個だと→20パーセント (%)
 3個だと→
 (10個まで計算する)

チョコレート10個の10%は10わる10なので1個です。
 チョコレート10個の20%は10わる10かける2なので _____ 個です。
 チョコレート10個の30%は10わる10かける3なので _____ 個です。
 (100%まで計算する)

図 13. 仕入れ値の計算

お菓子一つの値段を計算しよう。利益があったかなかったかも書きましょう。

	一袋の値段	数	一個の値段	売り値	利益
ハーシーズキス	1ドル20セント	30個		5セント	
スターバスト	2ドル70セント	30個		8セント	
ロリーポップ	3ドル	20個		25セント	
ガム	3ドル	10個		60セント	

図 14. 一次方程式の計算

10 セントのお菓子を 3 個こ買うと 30 セントです。式を書きましょう。

$$10 \times \textcircled{3} = 30$$

お菓子をいくつ買ったかを計算したいときは、

合計

 /

1つの 値段

 \Rightarrow $30/10=3$

10 セントのお菓子を 5 個こ買うと 50 セントです。式を書きましょう。

$$10 \times \textcircled{5} = 50$$

お菓子をいくつ買ったかを計算したいときは $50/10 = 5$

お菓子の数がわからないときは数字のかわりに X を書いて式を作ります。

10 セントのお菓子を X 個こ買うと 20 セントです。式を書きましょう。

$$10 \times \textcircled{X} = 20$$

お菓子をいくつ買ったかを計算したいときは $20/10=X$

図 15. ポスターの評価

ひょうか

1. ポスターの評価

一番いい：5点、その次：4点、その次：3点、その次：2点、その次：1点

デザイン

	色がきれい	字が大きい	おもしろい	見やすい	絵がたくさんある
ポスター1					
ポスター2					
ポスター3					
ポスター4					
ポスター5					

たいせつ じょうほう

大切な情報が入っているかどうか

	タイトル	いつ	どこで	何をする
ポスター1				
ポスター2				
ポスター3				
ポスター4				
ポスター5				

図 16. 低学年の宿題：口頭練習と文字練習

かしやしき	しゅくだい	なまえ	がつ	にち・か	ようび
お菓子屋敷	宿題	名前	_____	__月__日	_____曜日

A. 会話練習

1. お菓子屋敷で、何を売ったの。
2. たくさんお客さんがきた。（「お客さん」がわからない時は、英語で言わず、別の日本語で問い直して下さい。例 みんな来た。）
3. おかしたくさん売れた。
4. いくらぐらい売れた。
5. お菓子屋敷で何をしたの。どんな仕事をしたの。
6. おもしろかった。
7. 何がむずかしかった。

B. 文字指導

会話練習1で子供達があげたお菓子をノートにカタカナで3回ずつ書く練習をさせてください。来週の報告書を書く練習につなげます。

保護者の方へ

今日はおかしのご協力ありがとうございました。この学習活動のまとめとして、会話指導のため、上記質問をおうちでお子様にしてください。終わったら、サインをおねがいします。（習得語彙をみるため、お子様が答えたものをこの紙に書き留め提出おねがいたします。） 保護者サイン_____

図 17. 低学年宿題：文法

かしやしき しゅくだい なまえ がつ にち・か ようび
 お菓子屋敷 宿題 名前 _____ 月 _____ 日 _____ 曜日

1. 今日学校でならった あたらしい ことばを おかあさんと
 いっしょに よみましょう。() にひつつくじを いれましょう。

- おかし屋敷：おかしのうち。「やしき」は大きい家のことで
 す。
- ほうこく：はなしを すること。
 「おかし屋敷」のほうこく () おかあさん () しました。
- 売る
 チョコレート () クッキー () あめ () ガム () 売りました。
- 売り上げ：いろいろなものを 売って、できた お金
 おかし屋敷の売り上げは、16ドル94セントでした。
- 合計：お金やかずを ぜんぶ あわせること
 おかし屋敷でできた お金の合計は27ドルでした。

保護者の皆様

このシートは、読みの練習と学習語彙の定着をめざしています。ま
 ず、子供達に読ませて、間違っ読んでも、自分で修正する時間をあたえな
 がら、聞いて上げてください。間違いをそのまま読み過ごした場合のみ修正
 お願いします。はっきりしない発音も修正してください。読みながら、「そ
 れ何」とか、話を膨らませ、日本語で会話練習もおねがいします。難しい漢
 字もあえていれました。書ける必要はなく、みてわかればいいと思います。
 子供は、自分にとって面白いものは、たとえ難しくても覚えていきます。書
 けるようになってほしい漢字は、つぎのページにありますので、書く練習を
 させてください。筆順指導もお願いします。

図 18. 中学年の宿題：口頭練習と書く練習

かしやしき	しゅくだい	なまえ	がつ	にち・か	ようび
お菓子屋敷	宿題	名前	__月__	日	__曜日

1. お母さんかお父さんに聞いてみましょう。

(1) ハローウィンをどう ^{おも} 思いますか。

(2) ハローウィンに ^{こども} 子供たちに何 ^{なに} をあげますか。

(3) アメリカのかぼちゃと日本のかぼちゃとどうちがいますか。

(4) もし ^{こども} 子供だったらハローウィンに何 ^{なに} になりたいですか。

2. 日本のお友達 ^{ともだち} はハローウィン ^し を知りません。説明 ^{せつめい} してあげましょう。

ハローウィンって何？

図 19. 中学年の宿題：語彙・漢字

<small>かしやしき</small> お菓子屋敷	<small>しゅくだい</small> 宿題	<small>なまえ</small> 名前 _____	<small>がつ</small> _____ <small>にち・か</small> _____ <small>ようび</small> 月 _____ 日 _____ 曜日
-------------------------------	----------------------------	--------------------------------	--

1. 読み方を () に書いて、こえ 声を出して読みましょう。

漢字	読み方を 2回書く <small>かた</small> <small>かい</small>	
<small>かしやしき</small> お菓子屋敷	() () () () お菓子屋敷	() () () () お菓子屋敷
<small>しい</small> <small>ね</small> 仕入れ値	() () () 仕入れ値	() () () 仕入れ値
<small>う</small> <small>ね</small> 売り値	() () 売り値	() () 売り値
<small>りえき</small> 利益	() () 利益	() () 利益

2. ことば カタカナの言葉を書いて覚えよう。 おぼ

	2回書く <small>かい</small>	
チョコレート		
クッキー		
ガム		
キャラメル		

3. 漢字の言葉を書いて覚えよう。 ことば おぼ

	なぞる	3回書く <small>かい</small>		
<small>おお</small> 大きい	大きい			
<small>う</small> 売る	売る			
<small>う</small> <small>あ</small> 売り上げ	売り上げ			
<small>かし</small> お菓子	お菓子			

図 20. 高学年宿題：語彙・漢字

お菓子屋敷 かしやしき 宿題 しゅくだい 名前 なまえ 月 がつ _____ 日 にち・か _____
 (ようびを漢字で書きなさい)

1. つぎの漢字と読み方を線で結びましょう。

売り上げ 売り値 利益 仕入れ値	う(り)ね しい(れ)ね りえき う(り)あ(げ)
---------------------------------------	--

2. つぎの漢字と意味を線で結びましょう。

漢字 売り上げ 仕入れ値 売り値 <small>りえき</small> 利益	意味 ■ お菓子を売ってできた お金 ■ 売り上げから仕入れ値 をひいたお金 ■ 売るお菓子を店で買う <small>はら</small> ときに払ったお金
---	---

3. 漢字をおぼえよう

漢字	読み方	なぞる	2回書く
売る		売る	
売り上げ		売り上げ	
売り値		売り値	
仕入れ値		仕入れ値	
利益		利益	

ワープロでこの漢字をタイプして、カードを作ってください。封筒に「ハローウィンお菓子やしき」と書いて、カードを入れて学校にも持ってきてください。

図 21. 高学年宿題：読み

かしやしき お菓子屋敷	しゅくだい 宿題	なまえ 名前	がつ __月__日	にち・か _____
----------------	-------------	-----------	--------------	---------------

(ようびを漢字で書きなさい)

つぎのお礼の手紙を読んで、質問に答えてください。

先週の金曜日に、ソレンセン公園でカーニバルをしました。いろいろなゲームをしました。ゲームの切符を買ってくださってありがとうございます。切符の売り上げは合計、一〇〇ドルでした。このお金で、プリンターのインクを買います。来年もカーニバルをしたいと思えます。来てください。

御協力ありがとうございました。

こどもの家小学部

二〇〇六年 十一月九日

いつ_____ どこで_____

何をしましたか。 _____

何を売りましたか。 _____

それは、うまくいきましたか。はい・いいえ (○をしてください)

どうしてそう思いますか。 _____

この手紙はいつ書かれましたか。 _____

図 22. 反省のレポート：高学年(言語力が低い学習者用)

やしき

ハローウィンお菓子屋敷 宿題

かしやしき しゅくだい なまえ がつ にち・か
お菓子屋敷 宿題 名前 _____ 月 _____ 日 _____

(ようびを漢字で書きなさい)

かしやしき う

今日、ハローウィンお菓子屋敷でお菓子を売りました。うまくいきましたか。うまくいったことには○(まる)、まあまあだったことには△(さんかく)、うまくいかなったことには×(ぺけをつけてください)。

じゅんび 準備：お菓子をバスケットに入れました。	○ △ X
ねだん ふだ 値段の札をつけました。	
なら テーブルを並べました。	
お菓子がたくさん売れました。	
つ けいさん お釣りを計算しました。	
きやく お客さんがたくさん来ました。	
あとかたづ 後片付けができました。	

かんが

×をつけたところは、どうしたらうまくいくでしょうか。考えて書いてください。

図 23. 反省のレポート：高学年(言語力が高い学習者用)

ハローウィンお菓子屋敷^{やしき}宿題

お菓子屋敷^{かしやしき}宿題^{しゅくだい} 名前^{なまえ} _____ 月^{がつ} _____ 日^{にち・か} _____
(ようびを漢字で書きなさい)

今日、ハローウィンお菓子屋敷^{やしき}をしました。うまくいったこと、うまくいかなかったこと^{こま}・困ったことを書いてください。来年のハローウィンお菓子屋敷^{やしき}のために書いておきましょう。

うまくいったこと：

うまくいかなかったこと^{こま}・困ったこと：

どうしたらうまくいくでしょうか：

図 24. カリキュラム評価基準例

Activity 評価 Activity _____			
	Poor	Good	注
生徒の興味をひいたか(motivation)。	1	2 3 4 5	
生徒の創造性を引き出せたか (cognition)。*	1	2 3 4 5	
生徒に発見の場を十分あたえたか (cognition)。*	1	2 3 4 5	
生徒がお互いから学ぶ場をあたえたか。 (social domain)*	1	2 3 4 5	
他の学科との関連学習ができたか。 (connection)*	1	2 3 4 5	
文化学習・比較ができたか。(culture)*	1	2 3 4 5	
目標語彙、文型が定着したか。 (linguistic domain)*	1	2 3 4 5	
言語使用(oral/ literacy) を十分うながせたか。*	1	2 3 4 5	言語使用種類の記述：
Oral/ literacy activity が相互関連していたか。*	1	2 3 4 5	
Oral/ literacy activity がバランスよく入ったか。*	1	2 3 4 5	
生徒のコミュニケーションの力を発達させるために、どのような機会をあたえることができたか。			
—個人レベル			
—生徒間レベル			
—小グループレベル			
—クラス全体*			
—保護者との会話*			
—クラス外の大人・子供との会話*			
今後はどのような点に改善が必要か。			
—学習活動デザイン			
—学習活動の進行			
教師自己評価			
	Poor	Good	
生徒の目の高さでものを見たか。	1	2 3 4 5	
生徒の目の高さで話をしたか。	1	2 3 4 5	
活動や作業の指示は適切だったか。	1	2 3 4 5	
生徒全員に発表(話す)機会をあたえたか。	1	2 3 4 5	

中島&鈴木. 1997. 継承語としての日本語教育：カナダの経験を踏まえて. Ontario, Canada: Soleil. P.159の基準をプロジェクト用に修正を加えた。追加箇所は*印。

図 25. 学習者の学習達成度評価基準の例：高学年第三回目授業

レッスン名：ハローウィンのお菓子屋敷 学習者名_____				
日付	評価項目	他からの協力があってもできない。更に練習が必要	他からの協力できた	一人でできた
	3桁以上の数字と2桁の割り算ができる			
	単価、仕入れ値、売値の関係がわかり計算ができる			
	%を使って売り値から利益の計算ができる。			
	保護者への協力お礼と報告の手紙を書く			
	お願いの手紙の読み物の読解			
	お菓子販売に関する語彙が使える			
	お菓子販売に関する語彙がの漢字が読める、書ける			
	基準にそって Peer evaluation (お願いの手紙) ができる			
	基準にそって Peer evaluation (ポスター) ができる			
	グループ活動のリーダーとしてグループを率先する			

附録

教科別スタンダードと実際の学習活動 ([]内)の関係

低学年

算数のスタンダード (Reprinted, by permission. California Department of Education, CDE Press, 1430 N Street, Suite 3207, Sacramento, CA 95814.)

Students:

- Identify and know the value of coins and show different combinations of coins that equal the same value. (Grade 1, Number Sense 1.5) [コインの貨幣単位、コインの袋詰め]
- Solve addition and subtraction problems with one- and two-digit numbers (e.g., $5+58=\underline{\quad}$). (Grade 1, Number Sense 2.0~2.6) [売り上げの合計の計算]
- Use number sentences with operational symbols and expressions to solve problem. (Grade1, Algebra and Functions 1.0) [売り上げの計算]
- Find the sum or difference of two whole numbers up to three digits long. (Grade 2, Number Sence2.2) [売り上げの計算]
- Use mental arithmetic to find the sum or difference of two 2-digit numbers. (Grade 2, Number Sence2.3) [売り上げの計算]
- Know and use the decimal notation and the dollar and cents symbols for money. (Grade2, Number Sense 5.2) [値段付け、売り上げ計算]
- Relate problem situations to number sentences involving addition and subtraction. (Grade2, Algebra and Functions 1.2) [利益の文章題]
- Represent the same data set in more than one way (e.g., bar graphs, and charts with tallies). (Grade2, Statistics, Data Analysis, and Probability 1.2) [売り上げのグラフ化]
- Make precise calculations and check the validity of the results in the context of the problem. (Grade 1 & 2, Mathematical Reasoning 2.2) [売り上げの計算]

言語のスタンダード(Permission granted by NYS Education Department, Office of Facilities & Business Services, 89 Washington Avenue, Albany, NY.)

Native Language Arts Standard 1, Kindergarten to Grade1 (注: スタンダードの "first language", "native language"は本稿のカリキュラムデザインに際して "heritage language"と置き換えて解釈した)

LISTEN in order to:

- follow directions involving a few steps [コインの計算の説明を聞く]
- identify similarities and differences in information about people, places, and events [ペアワーク、グループワークの結果の発表を聞いて類似や違いがわかる、ポスターの違いを読み取る]

SPEAK in order to:

- report information briefly to peers and familiar adults [ペアワーク、グループワークの結果の発表]

READ in order to:

- interpret information represented in pictures, illustrations, and simple charts and webs [コイン計算の図の理解]

WRITE in order to:

- copy words, phrases, and sentences from primary language books, magazines, signs, charts, and own dictation [お菓子の名前を写して書く練習をする、ちらしを書く]
- write data, facts, and ideas gathered from personal experience in the first language [お菓子の種類分けをして数えて書く]

Native Language Arts Standard 3 , Kindergarten to Grade1

LISTEN in order to:

- recognize differences in two or more versions of a familiar story, song, or finger play [ペアワーク、グループワークの結果の発表を聞いて類似、違いがわかる]

SPEAK in order to:

- compare and contrast different versions of the same story [ペアワーク、グループワークの結果の発表を聞いて類似や違いがわかる、ポスターの比較]

Native Language Arts Standard 4, Kindergarten to Grade1

SPEAK in order to:

- discuss the content of friendly notes, cards, letters, and personal narratives with a partner or in a small group to get to know the writer and each other [お菓子販売の準備、後始末でのペア、グループワーク]
- respect the age, gender, cultural background, and interests of the listener [お菓子を売る側がお客さんに使う丁寧な表現]

WRITE in order to:

- write friendly letters to others, using linguistically appropriate salutations and closings [お菓子販売のちらしを書く]
- maintain, with teacher assistance, a portfolio of native language writings and drawings for social interaction [ポートフォリオに原稿のドラフトを保存する]

中学年

算数のスタンダード(Reprinted, by permission. California Department of Education, CDE Press, 1430 N Street, Suite 3207, Sacramento, CA 95814.)

- Calculate and solve problems involving addition, subtraction, multiplication, and division. (Grade 3, Number Sense 2.0) [単価計算]
- Know and understand that fractions and decimals are two different representations of the same concept (e.g., 50 cents is 1/2 of a dollar, 75 cents is 3/4 of a dollar). (Grade3, Number Sense 3.4) [単価計算]
- Select appropriate operational and relational symbols to make an expression true (e.g., $4 \underline{\quad} 3=12$, what operation symbols goes in the blank?) .(Grade3, Algebra and Functions 1.3) [単価計算]
- Make decisions about how to approach problem. (Grade3, Mathematical Reasoning 1.0) [単価計算]
- Solve problems involving multiplication of multidigit numbers by two-digit numbers. (Grade3, Number Sense 3.3) [単価計算]
- Solve problems involving division of multidigit numbers by one-digit numbers. (Grade3, Number Sense 3.4) [単価計算]

経済のスタンダード(Used with permission. *Voluntary National Content Standards in Economics*, copyright © 1997, National Council on Economic Education, New York, NY. All rights reserved. For more information visit www.ncee.net or call 1-800-338-1192.)

CONTENT STANDARD 7

At the completion of Grade4, students will know that:

- A price is what people pay when they buy a good or service, and what they receive when they sell a good or service. (Grade4 Benchmarks) [お菓子の値段付け、販売]

言語のスタンダード(Permission granted by NYS Education Department, Office of Facilities & Business Services, 89 Washington Avenue, Albany, NY.)

Native Language Arts Standard 1 , Grades 2 to 4

SPEAK in order to:

- provide directions: express an opinion; ask questions; summarize; provide a sequence of steps; describe a problem and suggest one or more solutions [ポスター製作、お菓子の値段の設定、反省会でプロジェクトでうまくいかなかったことへの解決策を話し合う]

READ in order to:

- find information from native language sources that is needed to solve a problem [算数の文章問題の理解]
- identify and interpret significant facts taken from maps, graphs, charts, and other visuals [ポスターの内容の理解]

WRITE in order to:

- take notes to record data, facts, and idea, both by following teacher direction and by writing independently [お菓子寄付のお願いの手紙を書く]

Native Language Arts Standard 3, 2 to 4

SPEAK in order to:

- express an opinion about school or community issues [お菓子の値段設定についての話し合い]
- ask and respond to questions [お菓子の値段設定の話し合い]

READ in order to:

- recognize how language and illustrations are used to persuade in printed and filmed advertisements and texts such as letter to the editor [いいポスターとよくないポスターの比較、お菓子寄付お願いの手紙]
- use opinions and reactions of teachers and classmates to evaluate personal interpretation of ideas, information, and experience [お菓子の値段、売るお菓子の選定の話し合い]

Native Language Arts Standard 4, 2 to 4

SPEAK in order to:

- respect the age, gender, and interests of the listener [話し合いで相手の言うことも考慮する]
- follow appropriate linguistic and cultural norms in social conversation [お菓子を売る側がお客さんに使う丁寧な表現]

WRITE in order to:

- use culturally appropriate tone, vocabulary, and linguistic structures for informal communication [お菓子寄付のお願いの手紙を書く]
- maintain a portfolio in the native language that includes writing for social interaction as a method of reviewing work with teachers and parents/caregivers [ポートフォリオに原稿のドラフトを保存する]

高学年

算数のスタンダード(Reprinted, by permission. California Department of Education, CDE Press, 1430 N Street, Suite 3207, Sacramento, CA 95814.)

- Interpret percents as a part of a hundred; find decimal and percent equivalents for common fractions and explain why they represent the same value; compute a given percent of a whole number. (Grade5, Number Sense 1.2) [お菓子の仕入れ値の～%を利益にする計算]
- Demonstrate proficiency with division, including division with positive decimals and long division with multidigit divisors. (Grade5, Number Sense 2.2) [単価計算]
- Use a letter to represent an unknown number; write and evaluate simple algebraic expressions in one variable by substitution. (Grade5, Algebra and Functions 1.2) [単価計算]

言語のスタンダード(Permission granted by NYS Education Department, Office of Facilities & Business Services, 89 Washington Avenue, Albany, NY.)

Native Language Arts Standard 1, 5 to 8

LISTEN in order to:

- distinguish between relevant and irrelevant oral information [話し合いの板書]
- draw conclusions and make inferences on the basis of explicit and implicit information in the native language [お菓子の値段付け、反省会での問題の解決方法]

SPEAK in order to:

- contribute to group discussions by offering comments to clarify and interpret ideas and information [ポスター製作、お菓子の値段付け、反省会での問題の解決方法]
- connect, compare, and contrast ideas and information [ポスターの比較、お菓子を選ぶ話し合い]

READ in order to:

- apply thinking skills such as defining, classifying, and inferring to interpret data, facts, and ideas from informational texts [算数の文章題を読んで答えをだす]

WRITE in order to:

- identify appropriate format for sharing information with an intended audience and comply with the accepted features of that format [お菓子寄付のお願い、報告書を書く]

Native Language Arts Standard 3, 5 to 8

LISTEN in order to:

- recognize persuasive techniques, such as emotional and ethical appeals in presentation [お菓子の値段の話し合いで自分が出した値段がどうしていいかを話して納得させる]

READ in order to:

- judge a text by using evaluative criteria from a variety of perspective, such as literary, political, cultural, and personal [作成したポスターの評価]
- suspend judgment until all information has been presented [お菓子の値段の設定の話し合いでいろいろな意見を最後まで聞いて決定する]

Native Language Arts Standard 4, 5 to 8

SPEAK in order to:

- respond to listener's interest, needs, and reactions to social conversation in the native language [ポスター作成、お菓子販売、利益の計算のグループワークで年齢の下のメンバーの補助をする]

WRITE in order to:

- share the process of writing with peers or adults [ポスター作成、お願いの手紙、報告書作成]
- write a personal reactions to experiences, events, and observations, using a form of social communication [反省のレポート]
- maintain a portfolio in the primary language that includes writing for social communication [ポートフォリオに原稿のドラフトを保存する]